

「前進あるのみ ～臨機応変に取るべし～」



順天堂大学 名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
一般社団法人 がん哲学外来 理事長
「明日を考える会 ～次世代の社会貢献～」
会長 樋野興夫

2020年12月6日『樋野動物園』のスタッフの企画による東京都恩賜『上野動物園の旅』に、wifeと参加した。人間としての『個性と多様性』の貴重な確認の時となった。

「毎日新聞出版 サンデー毎日」編集部から、『サンデー毎日 12月20日号』が送られてきた。大好評とのことである。驚きである。拝読された方から、

「『コロナの時代を生きる5か条』（下記）は心に深く刻んでおきたいと思いました」

「『コロナの時代を生きる5か条』有り難うございます。どんなときも、前進あるのみ！と感じます」、また、「新型コロナは怖いですが、しっかりと対応して参ります。他者の排除や差別につながらない様に致します」

などなどの多数の励ましのコメントを頂いた。

『コロナの時代を生きる5か条』

- ① 自分の力が人の役に立つと思う時は進んでやれ
- ② 人の欠点を指摘する要はない、人のあやまちは語るには足らぬ
- ③ 理由があっても腹を立てぬこそ非凡の人
- ④ 感謝は優しき声に表れる
- ⑤ 心がけにより逆境も順境とされる

大いに、感動した。

「自分より困った人に手を差し伸べようとすれば、自らの役割が生まれ、逆境はむしろ順境になるのです」、まさに、「人生に逆境も順境もない」&「目的は高い理想に置き、それに到達する道は臨機応変に取るべし」(新渡戸稲造)の教訓が今に生きる。

これこそ、「明日を考える会 ～次世代の社会貢献～」の現代的意義であろう！

『優しさを考える』

メディカルカフェ世田谷・出席者 渡辺三修

皆さん初めまして。「明日を考える会」に初めて寄稿させていただきます。自己紹介ですが、がん体験患者です。3つの原発性がん（胃13年前、食道4年前、前立腺3年前）を経験し、手術してきました。胃がんの時は大量吐血で死を覚悟した経験があります。

2020年はコロナの影響で皆さんも多くのストレスと不安の中で生活をされたことでしょう。私もその一人です。世の中は不信と不満が渦を巻き、その為にどうも人を思いやる気持ちが薄らいってしまったようです。医療従事者を含めた関係者への心無い対応を聞き、悲しい思いをされた人が大勢います。

また、日々のニュース・TV・SNS等では不誠実な情報も流れています。事実がゆがんで正しく伝わらずに、真実が変わったこともあったように感じます。人々から余裕が失われており、優しさ、尊敬される、感謝を感じる機会がお互いに減っていませんか？

道路でこちらを労わって停車した運転手さんの余裕に心が温まります。小さな親切や優しさを見つけて自分もそんなことができる人になりたいと思言動に表してみる。病気は人から余裕を失わせます。しかし、小さな優しさを見つけ、そこに喜びを感じ、頭を下げるのなら私もできそうです。

2021年 皆さんへ幸多かれと願ってやみません。

明日を
考える
ヒント

「愛の光を最も必要としている人たちに与えて祝うとき、クリスマスは本当のクリスマスになる」（ステープルトン）

「グロリア・イン・エクセルシス・デオ（天のいと高きところでは神に栄光あれ）」（讚美歌106番「荒野の果てに」より）